

I 一般会計事業報告

(第26年度)

平成21年4月 1日から
平成22年3月31日まで

世界各地では、地球温暖化が主な原因とされる気象異変や災害が多発し、温暖化物質である二酸化炭素の吸収源として、森林への関心が世界的に高まっています。

また、国内においては、「美しい森林づくり推進国民運動」が国民と政府が一体となって展開されております。

一方、森林に対する国民のニーズは、地球温暖化の防止、局地的豪雨の頻発等に対応した山地災害の防止、また生物多様性や景観の保全、環境教育や森林セラピー等による健康づくりの場としての利用など、多様化してきており、こうした多様なニーズに的確に答える森林づくりが求められています。

このような国民の森林に対する関心と期待が高まっている中、緑の募金の役割は益々大きくなっており、募金の役割と用途について、一層の説明と広報活動が必要です。

当基金においても「長野県ふるさとの森林づくり条例」の具体的な指針である「森林づくり指針」に基づき、森林や身近なみどりづくりを行政・NPO・地域住民との様々な形での協働を進め、多くの県民参加のもと、地域の実情やニーズにあった事業の展開に努めるとともに、運営経費の削減を図り、公募事業、学校林活動など実践的活動に重点をおいた効率的な事業の推進を図ってまいりました。

1 森林・林業及び環境緑化普及啓発事業

森林・林業及び環境緑化に対する県民の更なる理解を深めるため、次の事業を実施した。

(1) 情報誌・ホームページ等による広報・普及宣伝

ア 情報誌などの発行

基金業務、森林・林業及び環境緑化等について、県民の理解を深めるため、4月の緑化シーズンに併せ、信濃毎日新聞紙面を利用したグリーンキャンペーンを行うとともに、機関誌の発行(2,000部)、カレンダー、緑化・育樹ポスター等の配布を行った。

イ 緑の情報サービスの推進(ホームページによる情報発信)

県民参加による森林づくりを推進するため、森林・林業の整備にかかる各種行事や、環境緑化情報などをホームページを用いて、森林ボランティア団体等に広く情報発信して森林づくりへの実践参加を促進した。

具体的には、ホームページの更新を随時行い、森林教室の案内や巨樹・古木の絵本「おおまきの唄がきこえる」の紹介、基金の事業・決算などを発信した。

ウ 巨樹・古木をテーマにした絵本作り

緑と水の森林基金助成事業（国土緑推）の助成を受け、巨樹・古木をテーマに年間1冊のペースで「木が伝えてくれる物語」の絵本を5冊発刊することとして取り組んでおります。本年度は「贄川のとちの木」（塩尻市）の調査（3冊目）及び「おおまきの唄がきこえる」（阿智村）を2,000冊印刷（2冊目）販売し、巨樹・古木が伝えてくれるメッセージが子どもたちに届き環境教育の推進が図れた。

エ 「森林の恵み 地域の恵み探検隊」シンポジウムの開催

昨年度「子供ゆめ基金」の助成を受けて、県内各地で実施した自然体験・地域体験の活動や学習の状況を、総合的な教材として制作しインターネットで公開した「森林の恵み 地域の恵み探検隊～みんなでつくる信濃の国の物語～」の普及推進を図るため、長野大学と共催でシンポジウムを開催した。

・平成21年9月27日(日) 上田市 「長野大学」 60名参加

また、教材の普及啓発として各種コンクールに応募を行い、第10回インターネット活用教育実践コンクール(主催:同実行委員会)では、文部科学大臣賞、及び第13回デジタル・アーカイブコンクール(主催:岐阜女子大学)では、一般部門優秀賞を受賞した。

(2) 植・育樹等事業

ア ふるさとの森づくり県民の集い（第60回長野県植樹祭）の共催

6月13日に東御市「湯の丸高原」において、長野県、中部森林管理局、東御市、上小林业振興会、信州上小森林組合等の協力を得て、「つづけよう 未来のための 森づくり」をテーマに一般県民1,400人の参加により開催した。

また、森林・林業に関する知識を普及啓発するため、県植樹祭に併せ、林業士会、長野県森林インストラクター会等の協力のもと森林教室を開催した。

北信、東信、中南信地区より5台のバスを運行し、県内から122名の参加があり、自然観察会・枝打ち体験などを通じ、森林・林業への理解を深めることができ好評でした。

イ 地区緑化推進団体による森林の感謝祭などの開催

国土緑化推進機構の「緑と水の森林基金助成事業」として、県下9地区において地区の実情に即し、森林の感謝祭、植・育樹など体験型の行事等を実施した。

(3) 緑に親しむ集いの開催

森林とふれあい、様々な体験をすることによって、木に親しみを持つとともに森林について関心を深めていただくために、主に親子向けのプログラムを年間30回、長野県林業総合センター学習展示館と共催で行った。毎回大変好評で約1,540人の参加があった。

(プログラムの一例)

しいたけの植菌、森林観察、野鳥観察、木工教室、昆虫教室、燻製教室、きのこ教室、四季の森林観察

(4) 野鳥愛護思想の啓発

小・中学校を対象に、児童・生徒の野鳥を愛し、緑をはぐくむ心を養うため、野鳥観察、巣箱製作・架設など野鳥愛護の実践活動を行う5校に対して、「信州の緑と野鳥を守る会」を通して助成した。

平根小学校（佐久市）、高島小学校（諏訪市）、城北小学校（諏訪市）、

箕輪北小学校（箕輪町）、飯田西中学校（飯田市）

（5）森林整備講演会・研修会等の開催

健全な森林を長期にわたって維持していくため、各地域の先進的な活動を紹介し、森林整備と地域材の利用を推進することについて県民の皆さんと一緒に考える「森林フォーラム2009」を長野県、林業関係団体等と共催で実施した。

・平成21年11月10日(火) 佐久市「もちづき荘」 120名参加

2 森林づくり等実践参加促進事業

（1）林業関係等コンクールの開催

ア ふるさとの森林づくり賞及び林業関係ポスター等コンクールの開催

森林づくり、森林環境教育、信州の木の利用などに優れた功績があった者の表彰、及び小・中学校、高等学校の児童・生徒への環境緑化思想の高揚を図るためのポスター等コンクールを長野県、林業関係団体とともに開催した。

・ふるさとの森林づくり賞及び林業関係ポスター等コンクール(1月15日表彰)

長野県ふるさとの森林づくり賞 長野県緑の基金理事長賞 4名

林業関係ポスター等コンクール 長野県緑の基金理事長賞 23名

イ 木工作コンクールの開催

小・中・盲・ろう・養護学校の児童生徒を対象に、身近な木材を生かして夢を描き、自由な発想で創作することにより、子供たちの豊かな成長、木に触れ、ものを作る喜びを知ってもらうために、木工作コンクールを長野県木材青壮年団体連合会と共催で実施した。

・木工作コンクール 長野県緑の基金理事長賞 1名（10月31日表彰）

（2）森林環境教育指導者研修会の開催

子どもたちに、自然に親しみ森林の重要性など、体験を通じて学んでもらうことを目的に、本年度は中信地域の教職員等20人を対象に、森林づくりの目的やチェンソー等による森林施業実習の研修会を11月6日に大町市内で実施した。

（3）ボランティア支援事業

国土緑化推進機構の助成(先駆的先導的森づくりボランティア活動支援事業)を受け、営利を目的としない民間の団体等が先駆的先導的森づくりの重要性等についての理解を深めるとともに、このための森林整備・保全を行うことを目的とした森林づくりボランティア活動を行なう県下4団体に対して支援した。

・(特)山遊楽舎(佐久市)

・ハヶ岳森林文化の会(茅野市)

・町の花と緑を育てる会(小海町)

・横川里山の会(岡谷市)

(4) 学校林整備・活用推進事業

ア みどりの少年団等森林活動支援事業

児童・生徒が行う森林活動を普及推進するため、みどりの少年団等がNPOや地域の指導者等と連携し、林業改良指導員がコーディネータとなって新たに学校林整備などを行う県下12団体に対して助成した。

- ・佐久地区(1) 大沢みどりの少年団
- ・下伊那地区(1) 根羽みどりの少年団
- ・大北地区(1) 八坂小学校
- ・長野地区(7) 小川小学校、坂城小学校、鬼無里小学校、鬼無里中学校
古間小学校、更級小学校、大岡小学校
- ・北信地区(2) 木島平南部小学校、木島平中部小学校

イ 学校林等の整備

国土緑化推進機構の助成(学校林を活用した森林環境教育促進事業)を受け、学校林等の整備を行い、青少年に森林体験活動の場と機会を確保し、学校林活動の普及推進と森林環境教育の充実を図るために活動する団体に支援を行った。

- ・長野市 若槻養護学校 PTA

3 都市緑化等環境整備事業

○ ゴルファーの緑化促進協会受託事業(GGG緑化事業)

(社) ゴルファーの緑化促進協会(全国367社、うち県内13社)の協力金を受けて、公共施設の緑化を実施した。

区分	地区	事業主体	実施場所・樹種
第63・64回	佐久	小諸市	小諸市大字諸151 「飯綱山公園駐車場」 ベニサラサドウダンツツジ(60本)
	長野	長野市	長野市大岡 「大岡アルプス展望公園」 大山サクラ(13本)、山モミジ(13本)

4 その他

(1) 国土緑化運動・育樹運動標語の募集

県下各地の小中学校・一般より応募(134点)のあった中から10点を推薦した。

中央審査(応募総数287点)の結果、平成22年度標語に、次の2点が特選になりました。

国土緑化運動標語 「小さな芽 届け未来へ 緑の力」(神奈川県小6)

育樹運動標語 「育てたい 豊かな明日へ つながる緑」(山口県中1)

(2) 森の名手・名人の選定

国土緑化推進機構が毎年選定を行っております「森の名手・名人」に、平成21年度は全国で93名が選定されました。

うち長野県から、全国最多の8名の方が選定され、県内の名手・名人は32名となりました。

氏名	年齢	市町村	内容
三石 富子	80歳	木曾郡南木曾町	桧笠職人
曾根原 治久	75歳	長野市	竹細工
山本 國弥	73歳	北安曇郡小谷村	炭焼き・炭窯づくり
小椋 栄一	72歳	木曾郡南木曾町	ろくろ細工
牛山 元文	74歳	茅野市	鋸製造
水野 千代	79歳	長野市	山菜料理
吉川 康男	78歳	木曾郡上松町	伝統的伐倒職人
横田 栄一	68歳	長野市	建具職人

5 基本財産の運用

世界的な金融危機で輸出産業の生産が停滞、個人消費や雇用情勢の急速な悪化、更には米大手証券会社が経営破綻するなど世界同時不況が与えた痛手は大きく、ドル安・円高、超低金利、デフレの進行などが急速に進み世界の株式市場においても、当分の間、景気の回復が不透明な状況に陥っている。

そのような状況の中で基本財産の運用については、資金の約半分を運用益確保、残りの半分を安定資金と区分けし、平均利率2%以上を目標にしている。

平成21年度は、運用替は行わず、基本財産の受取利息収入の当初予算5,673千円に対しまして決算は5,664千円となり、ほぼ当初予算額を確保することができた。

6 出捐金の内訳

平成21年度末	5億8,726万8,281円
（前年度よりの増加額	26万4,882円）
＜内訳＞	
・長野県	150,000,000円（25.6%）
・市町村	123,000,000円（20.9%）
・民間	314,268,281円（53.5%）